アザメの瀬を守っている人たちがいるんだよ。

アザメの瀬をつくる際には、地元の人たちと何回も何回も話し合いをしながら計画を進めてきました。もちろん、ここで遊んだり、生き物の勉強をしたりする小学生の友だちからも意見を聞きました。このように多くの人たちの夢や希望がつまったアザメの瀬が、地域の大切な財産になってくれることを願っています。

平成14年12月には、アザメの瀬づくりを支える住民の皆さんの組織「アザメの会」が自主的にできました。その後、NPO法人となり、子どもたちを対象とした見学会や魚とり、水あそびなどのイベントをアザメの瀬で開いています。

●アザメの瀬リアルタイム映像
http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/bousai/
（SATRISの※松浦川流域をクリックしてください）

●アザメの瀬ホームページ
http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/azame/index.html

国土交通省九州地方整備局
武雄河川事務所
〒843-0023　佐賀県武雄市武雄町大字昭和745
TEL.（0954）23-5151　FAX.（0954）23-5193
ホームページ　http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/

年　　組	名前

■アザメの瀬副読本作成実行委員会
委員長　大草　秀幸（NPOアザメの会理事長）
委員　野方　尚子（唐津市立相知小学校教諭）
野口　英二（唐津市立田頭小学校教諭）
岩渕美香子（唐津市立伊岐佐小学校教諭）
上田　守（唐津市教育委員会学校教育課課長）
佐々木講吉（唐津市教育委員会学校教育課指導主事）
岩本　英樹（唐津市教育委員会相知支所教育課課長）

■監修
鈴木　信彦（佐賀大学農学部教授）
上赤　博文（佐賀県立多久高等学校教諭）
中原　正登（佐賀県立宇宙科学館学芸員）
江口　浩文（佐賀県教育庁学校教育課指導主事）

いのち育む豊かな湿地

みんなで学ぼう アザメの瀬

松浦川とアザメの瀬

もくじ

・ようこそ、生命の宝箱へ。…… 1
・どんなしくみなの？…… 3
・何ができるの？…… 5
・どんな生き物がすんでるの？…… 7
・魚は、どんなところにいるんだろう？…… 9
・たくさんの鳥もやってくるんだよ！…… 11
・種の銀行って何だろう？…… 13
・自然と仲良くするためのルール。…… 15
・気づいたことを書き込もう！…… 17
・アザメの瀬を守っている人たち。…… 19

ようこそ、アザメの瀬へ。ようこそ、生命の宝箱へ。

みんなは、フナやメダカ、ドジョウ、ナマズに会ったことがありますか？
アザメの瀬には、そんな魚たちやトンボやちょうちょなどの虫たち、
そしていろいろな草花たちがいっぱいすんでいるんだよ。
生命が息づいているアザメの瀬に、さあ、みんなで出かけよう！

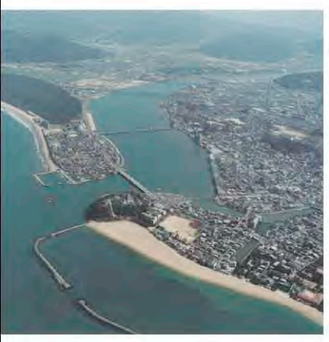
●平成18年3月撮影

松浦川のことを知ってるかい？

松浦川のはじまりは、武雄市の青螺山です。とちゅうで、厳木川や徳須恵川などの川が合流し、唐津湾に注いでいます。アザメの瀬は、松浦川の中流（唐津市相知町）にあります。

上～中流

上～中流は、山々に囲まれ、美しい自然が豊かな地域です。川はくねくねと曲がっていて、水の流れは速いです。



下流

下流は、平野が広がり農業や水産業、そして唐津市を中心として工業も行われています。河口には干潟ができ、貴重な生き物も見られます。川幅は広く、流れはゆるやかです。

川の長さは47㎞、約10万人の人がすんでいます。

松浦川の長さは47㎞、直線で唐津市から鳥栖市までのきょりとほぼ同じ。武雄市、伊万里市、唐津市を流れていて、流域面積（降った雨が川に流れ込む土地の広さ）は446㎞²、唐津市より少し広いくらいの大きさです。

農業、水産業、工業や暮らしを支えています。

松浦川の水は、みんなの家の水道水や工場や農業で使う水、そして発電用の水として利用されています。

時には、暴れることもあるんだよ。

いつもはおだやかな松浦川ですが、大雨が降ると水の量が増えて、恐ろしい水害を起こすこともあります。いままでいちばん大きな水害は昭和28年で、41人もの人たちがぎせいになりました。最近でも、昭和55年、平成2年などとたびたび水害が起きています。

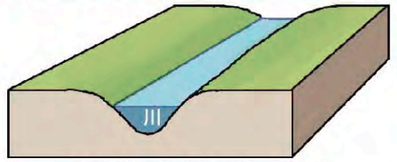
●平成2年7月2日洪水　松浦川（伊万里市大川町大川野）

アザメの瀬って、何だろう？

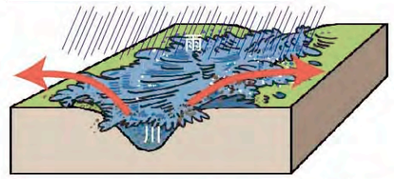
大雨などで松浦川の水かさが上がった時に、川から水があふれるようにして、一時的に水がたまる場所をつくったのがアザメの瀬です。このようないつも水があり、湿った土地のことを「湿地」といい、川がたびたびあふれてできる湿地を氾濫原といいます。

「アザメの瀬」は、この周辺の地区名です。「アザミの花が咲いている場所」というのが名前の由来といわれています。

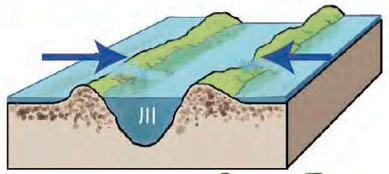
氾濫原ができるまで



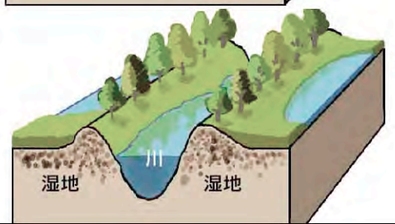
❶ふだんは、水は川の中を流れています。



❷大雨などで水かさが増え、水は土砂といっしょに川からあふれます。



❸何度もあふれているうちに、川の両側に土砂がたまって、あふれた水が川の中にもどりにくくなります。



❹川の水が少なくなっても、あふれた水がたまったままになり、湿地ができます。

湿地（氾濫原）は、生き物にとって、とても大切なところなんだよ。

湿地（氾濫原）は、水辺と陸地をつなぐところで、いろいろな役目を持っています。でもほとんどの場所が水田へと開発されて、冬場は水がたまらないように改良されています。また、農薬の影響もあって、湿地を好む生き物は大半が見られなくなってしまいました。

湿地（氾濫原）のはたらき

①川の水をきれいにします。

湿地に生えているヨシなどの植物が水の中のよごれの原因になる物質を吸収したり、湿地にすむ微生物が水のよごれを食べたりして水をきれいにします。

②水害を防ぎます。

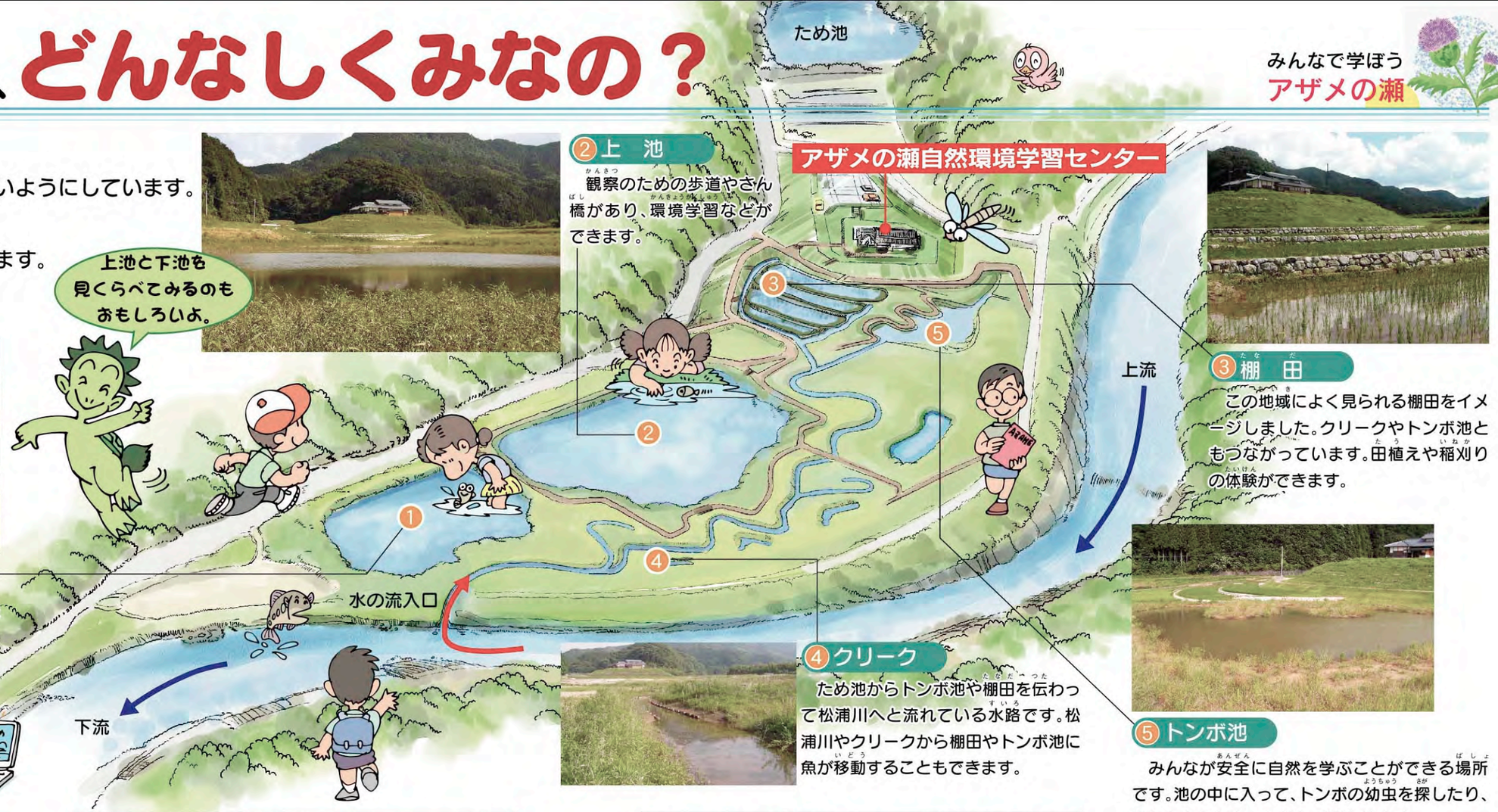
大雨などの時に川の水を一時的にためることで、川を流れる水の量を少なくし、水害が起きることを防ぐはたらきがあります。

③生き物には欠かせない場所です。

湿地は、洪水時の魚のひなん場所になったり、フナ、コイ、ナマズ、ドジョウなどの卵を産む場所になったりします。また、こん虫やカエルなども多く、水鳥たちのえさ場にもなります。

アザメの瀬は、どんなしくみなの？

アザメの瀬は、
地面を低く掘り下げて水がたまりやすいようにしています。
松浦川の水かさが増えた時に
水が流れ込むための入口もつくっています。



①下　池

できるだけ自然のままにしています。大雨の後にはフナやドジョウなどの魚たちがたくさんみられます。

②上　池

観察のための歩道やさん橋があり、環境学習などができます。

③棚　田

この地域によく見られる棚田をイメージしました。クリークやトンボ池ともつながっています。田植えや稲刈りの体験ができます。

④クリーク

ため池からトンボ池や棚田を伝わって松浦川へと流れている水路です。松浦川やクリークから棚田やトンボ池に魚が移動することもできます。

⑤トンボ池

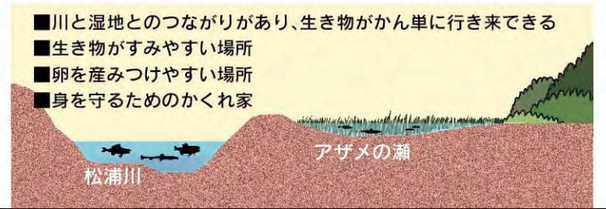
みんなが安全に自然を学ぶことができる場所です。池の中に入って、トンボの幼虫を探したり、魚たちとふれあったりして楽しめます。

生き物たちは、どんなふうに行き来するんだろう？

アザメの瀬は、生き物と松浦川とのつながりを大切に考えてつくられています。生き物たちがいつでも松浦川とアザメの瀬を移動することができるようにすることで、たくさんの生き物がすむ自然豊かな場所になります。

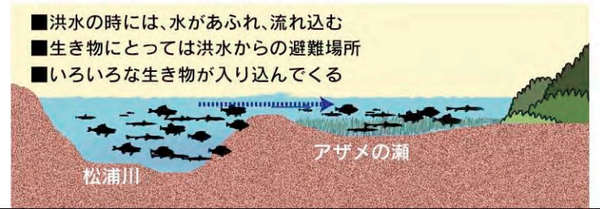
ふだんは、クリークなどで川とつながりがあり、生き物はかん単に行き来できます。小さな生き物をたくさん食べる大型の魚が少なく、えさとなるプランクトンなども多いので、生き物にとってすみやすく、フナやドジョウなどが卵を産む場所になっています。

●ふだんの水位



大雨が降って川の水が増えると、川からあふれた水が流れ込んできます。アザメの瀬は、激しい川の流れから生き物が避難する場所になります。また、川の上流から流されてきた植物や生き物が新しくそこでくらすようになるなどの変化も起きます。

●大雨のときの水位



アザメの瀬は、洪水の時、川の水があふれてできる湿地で、豊かな自然があり、生き物たちがすむのに適した場所です。また、アザメの瀬は、みんなが生き物たちとふれあうことのできるところです。

アザメの瀬に行ったら、何ができるの？

アザメの瀬には、新しい発見や驚きがいっぱいつまっています。
魚や鳥、こん虫などたくさんの生き物たちとの出会いや松浦川の豊かな自然とのふれあいなど楽しさや不思議があふれています。
さあ、みんなで行ってみよう。

自然体験学習

アザメの瀬のさまざまな動植物の観察や魚とり、バードウォッチングなど自然とのふれあいを通じて、自然のしくみや生き物の不思議な世界を知ることができます。

松浦川アザメの瀬 自然環境学習センター

たくさんの生き物がすんでいるアザメの瀬のしくみを学べるようつくられました。環境学習や市民のみなさんの交流の場などとして利用できます。

田植え体験（6月ごろ）

棚田では、イネの苗を植える田植え体験ができます。秋にはたくさんのお米がとれるから、楽しみですね。

堤返し（10月ごろ）

毎年秋に1回、学習センターの山側にあるため池の底の水を落として、堤を手入れする行事です。地元のアザメの会のみなさんが行っているもので、川遊びや魚とり、バーベキューなどもします。

アザメの瀬には、どんな生き物がすんでるの？

水辺のこん虫の代表、トンボの世界をのぞいてみよう

みんなで学ぼう アザメの瀬

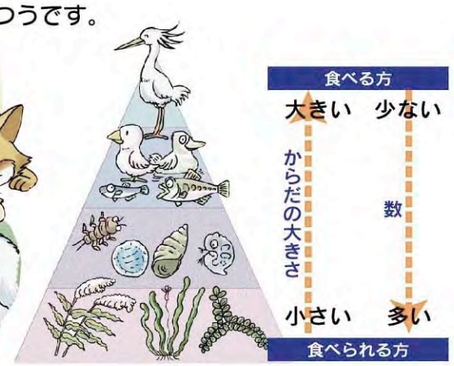
生き物の中には、湿地や一時的に水びたしになる場所がなくては生きていけないものがたくさんいます。
魚ではフナやドジョウ、ナマズなどが代表的なものです。
こん虫ではトンボやアメンボ、そしてカエルなどもそうです。
そんな生き物たちが、アザメの瀬にはすんでいます。

いろいろな生き物がいるんだよ。

アザメの瀬のまわりは、川があり、湿地があり、草原や森林もすぐそばにあります。
それぞれの場所に、そこに適した生き物たちがくらしています。

みんなつながってるんだ。（食物連鎖）

自然の生き物たちは、食べる・食べられるの関係でつながっています。こうした関係を「食物連鎖」といいます。食べられる生き物の方が食べる生き物より数が多いのがふつうです。



トンボの一生をみてみよう。

アザメの瀬にはトンボがたくさんいます。わかっているだけでも40種類。あまり知られていないトンボの一生を紹介します。

産卵方法と卵の形

ほとんどのトンボは、水中に産卵するか、水辺の植物の茎や葉の中に卵を産みこむかのどちらかの方法で産卵します。水中に産卵するトンボの卵は丸っこい形をしていますが、植物に産卵するトンボの卵は、植物の中に入っていきやすいように細長い形をしています。

●セスジイトトンボの卵（植物に産卵）

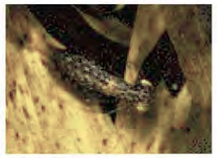
●水中の植物に産卵しているセスジイトトンボ（左がメス）

●ショウジョウトンボの卵（水中に産卵）

幼虫から成虫へ

幼虫は「ヤゴ」と呼ばれ、水中で生活しています。ヤゴはミジンコやボウフラ、時にはメダカなどの水中の小動物を食べる肉食性です。10回以上脱皮して成長し、羽化して成虫になります。幼虫から成虫になるまでに短いものではおよそ1ヶ月、長いものでは数年かかる種類もいます。

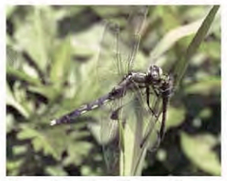
●ふ化して間もないセスジイトトンボのヤゴ

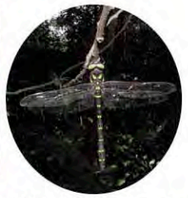

●ギンヤンマのヤゴ

●羽化したショウジョウトンボ（右下にヤゴのぬけがらがある）

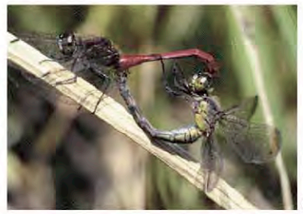
成虫の生活

羽化して間もないトンボは、体が柔らかく飛ぶ力も強くありません。そのため、10日から2週間ほど水辺からはなれ、草地や林でさかんにえさを食べて一人前になります。草地や林はえさになる小さな昆虫が多く、トンボがはねを休めることができる茂みもあるので、トンボにとってとても大切な環境です。トンボは成虫も肉食性で、カやハエ、小さなガなどのこん虫を食べます。一人前になったオスは水辺にもどってなわばりをはり、やってきたメスと交尾して子孫を残します。繁殖が終わると、トンボはその一生を終えます。


●コノシメトンボを食べるシオカラトンボ

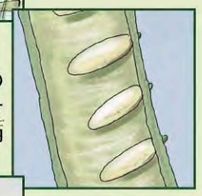

●はねを休めるオニヤンマ

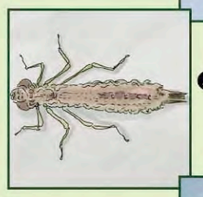
●なわばりをはるショウジョウトンボ


●マユタテアカネの交尾

ギンヤンマの一生

❶産卵（右がメス）

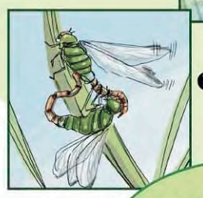

❷草の茎の中に産みつけられた卵


❸幼虫（ヤゴ）

❹羽化

❺羽化したばかりの成虫

❻一人前になった成虫


❼交尾

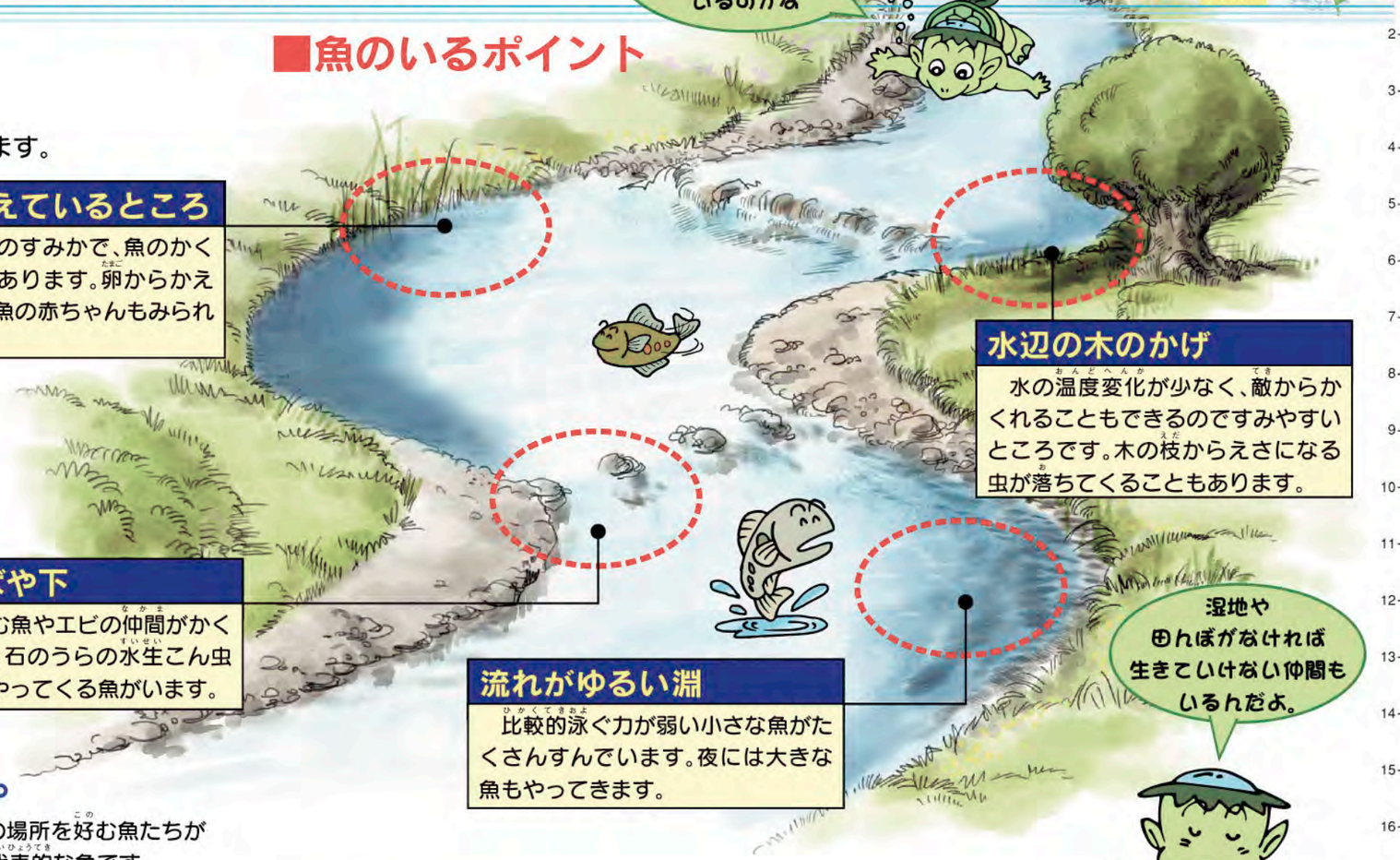
魚は、どんなところにいるんだろう？

川には深いところ、浅いところ、流れが急なところ、ゆるやかなところなど、さまざまなところがあります。
川のしくみがわかれば、魚がどんなところにいるのかが、わかるようになります。

まず、川がどんなふうになってるかを知ろう！

川が浅く、流れが速いところを「瀬」といいます。瀬には水面に白い波がたっている早瀬と少し流れがゆるやかな平瀬があります。えさ場や産卵場所になります。そして深くて、流れがゆるやかなところが「淵」で、魚の休憩場所になります。

■魚のいるポイント



水草がはえているところ

水生こん虫のすみかで、魚のかくれ家の役目もあります。卵からかえったばかりの魚の赤ちゃんもみられます。

水辺の木のかげ

水の温度変化が少なく、敵からかくれることもできるのですみやすいところです。木の枝からえさになる虫が落ちてくることもあります。

石のそばや下

川底にすむ魚やエビの仲間がかくれていたり、石のうらの水生こん虫をねらってやってくる魚がいます。

流れがゆるい淵

比較的泳ぐ力が弱い小さな魚がたくさんすんでいます。夜には大きな魚もやってきます。

場所によって、すんでいる魚もちがうんだって。

魚は川のどこにでもいるのではなく、瀬や淵、川底の状態の違いにあわせて、それぞれの場所を好む魚たちがすんでいます。松浦川の瀬でよくみられるのがアユやオイカワ、淵ではフナやカワムツが代表的な魚です。

●ギンブナ（全長約25㎝）
水面近くからあまり深くないところを泳いでいます。水生こん虫や貝、小魚などを食べます。田んぼや水路などの水草に卵を産みつけます。

●カワムツ（全長約15㎝）
主に淵にすんでいます。木の枝などから落ちてきた虫などを食べます。卵は平瀬の砂などに産みつけます。

●オイカワ（全長約15㎝）
カワムツと非常に近い仲間で食べるものも卵を産む場所も同じですが、オイカワは瀬でよくみられます。

●ドジョウ（全長約12～18㎝）
主に流れがゆるやかな川底やどろの中にすんでいます。水生こん虫や水草などなんでも食べます。田んぼや湿地で卵を産みます。

●メダカ（全長約4㎝）
流れがゆるやかなところやため池など水の流れがないところにすんでいます。主にプランクトンを食べ、田んぼなどで卵を産みます。

●アユ（全長約18～30㎝）
瀬の部分でよくみられます。なわばりを持っていて、他のアユが近づくとこうげきします。早瀬や平瀬など流れがあるところで卵を産みます。

●ナマズ（全長約60㎝）
川底やどろの中にすみ、小魚やエビ、貝などを食べています。田んぼや水路などの水草に卵を産みつけます。

※魚の全長は、大人の魚の大きさです。

川の生き物をつかまえよう！

あみを使う

岸辺の草の根もとや石のふちをあみでさぐって、すくいあげます。

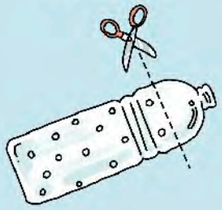
手づかみでとる

石の下や草むらのかげに、そっと手を入れて魚がさわったらすぐにつかみます。

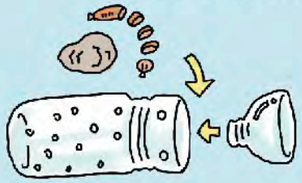
わなを使う

ペットボトルを使ってわなをつくり、川にしかけておくと、魚やカニなどがかかります。

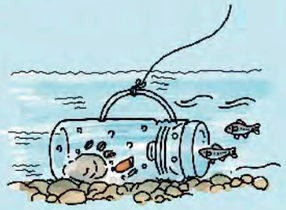
①ペットボトルに小さなあなをあけて、ふたつに切ります。



②中にえさ（魚のアラやソーセージ、みそなど）とおもりの石を入れて、口の部分をさかさまにはめます。



③川の中にしずめて、半日くらいでひきあげます。



たくさんの鳥もやってくるんだよ!

アザメの瀬でみることができる鳥は60種類以上。
河原や水辺の草むらや林などさまざまな場所にすんでいます。
声や姿で鳥の種類がわかるようになったら楽しいよ。
双眼鏡を持ってでかけよう!

草原にいる鳥
カササギ、ヒヨドリ、ジョウビタキ、ツグミ、キジバト、エナガ、カワラヒワ、ヒバリ　など

林の中にいる鳥
チョウゲンボウ、トビ、メジロ、モズ、フクロウ、コゲラ、ホトトギス　など

水辺(みずべ)にいる鳥
カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、オシドリ、マガモ、カワセミ、セグロセキレイ　など

どこにどんな鳥がいるのかな。

ふつう鳥をみかける場所は、その近くにえさがあることが大切なポイントです。魚を食べる鳥は水辺にいることが多く、こん虫などを食べる鳥は草原や林の中でよくみられます。

季節によって、見られる鳥がちがうんだよ。

鳥にはずっと同じところにすんでいる鳥もいれば、夏を日本ですごす鳥や冬を日本ですごす鳥もいます。
アザメの瀬でみかけた鳥をずっと記録していけば、1年を通した鳥のようすがわかってきます。

留鳥
1年中すんでる鳥

●カワセミ
全長約17cm。コバルト色とだいだい色がきれいな鳥です。水中にダイビングして小魚をつかまえます。

●カイツブリ
全長約26cm。水にもぐるのがとくいで、足には水かきがあります。ヨシなどの茎に水草を集めて巣をつくります。

●キジバト
全長約33cm。ヤマバトとも呼ばれる野生のハトです。くり返しデデポッポーと鳴きます。

●コサギ
全長約61cm。水中で片足をふるわせてえものを追い出し、つかまえます。平地の林に集団で巣をつくります。

夏鳥
春夏に来て、秋に南に行く鳥

●ホトトギス
全長約28cm。高原や林にすんでいます。ウグイスなどの巣に卵を産み、自分では子育てをしません。

●ササゴイ
全長約52cm。川の瀬や水田で小魚をつかまえます。大きな木に集団で巣をつくってくらします。

冬鳥
秋に来て、春に北に行く鳥

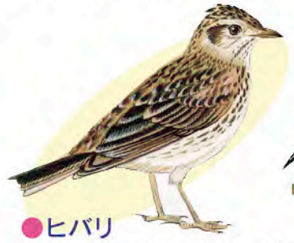
●ツグミ
全長約24cm。10月頃にシベリアからやってきて、4月末頃に帰ります。木の実やこん虫、ミミズなどを食べます。

●クサシギ
全長約24cm。目のまわりが白いのと羽根のふちに白い点があるのが特徴です。水田や湿地、川岸などにいます。

耳をすまして、鳥の声を聞いてみよう。

アザメの瀬には、いろいろな鳥の声がひびいています。その鳥たちの声を人の言葉におきかえて覚えておけば、どの鳥の声なのかがわかるようになります。

●ホオジロ
一筆啓上仕り候、源平つつじ白つつじ
(イッピツケイジョウツカマツリソウロウ、ゲンペイツツジシロツツジ)



●ヒバリ
日一歩日一歩日一歩利取る利取る
(ヒイチブヒイチブヒイチブリトルリトル)

●メジロ
長兵衛、忠兵衛、長忠兵衛
(チョウベエ、チュウベエ、チョウチュウベエ)

●ツバメ
虫食って土食ってしぶい
(ムシクッテツチクッテシブイ)

●コジュケイ
ちょっと来い、ちょっと来い
(チョットコイ、チョットコイ)

●ホトトギス
特許許可局、特許許可局
(トッキョキョカキョク、トッキョキョカキョク)

バードウォッチングにチャレンジ!

アザメの瀬の鳥たちを観察しましょう。あまり動き回らずに鳥がいそうなところでじっと待ってると、いろいろな鳥たちがやってきます。

用意するもの

●双眼鏡
鳥のひょうじょうを見るためにはあるといいよ。

●筆記用具
観察記録をつけるために、ノートと鉛筆は必ず持っていこう。

●帽子
熱中症にならないように帽子をかぶろう。

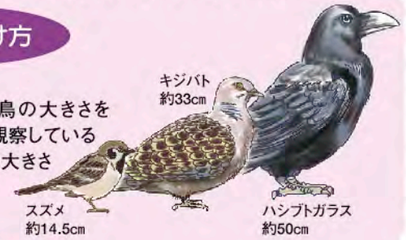
●リュックサック
両手が使えるように荷物は、リュックサックで。

●図鑑
鳥を見分けるのに、図鑑があればすぐに調べられるね。

●服そう
はでな色ではなく、できるだけ茶色や緑など自然に近い色の服に。できれば長そでで、くつも歩きやすいものを選ぼう。

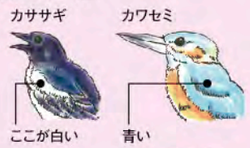
鳥の見分け方

●大きさ
よくみかける鳥の大きさを知っていれば、観察している鳥のだいたいの大きさがわかります。



●フィールドマーク
鳥にはそれぞれ目じるしになるようなとくちょうがあります。それをフィールドマークといいます。

■からだの色



■くちばしの形

種の銀行って何だろう？

アザメの瀬が湿地だったころ、そこに生えていた植物は今のものとはちがっていたはずです。そこで、昔のままの姿にもどすためシードバンクを利用した植物の復元を試してみました。

土の中には「種」の銀行があるんだって。

土の中には、数十年も前の植物の種が眠っています。そこで、湿地だった頃の土を掘りかえして、まきました。すると、今では少なくなってしまったシャジクモという藻の仲間や田んぼに生えるコナギなど20種類以上の植物が芽を出しました。

シードバンクとは？

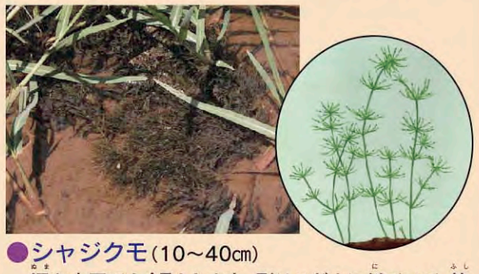
●シード：種（たね）　●バンク：貯蔵庫・銀行

土の中に埋まっている植物の種のことです。

●土をまいた状態

●よみがえったたくさんの植物

シードバンクから芽を出した植物



●シャジクモ（10～40㎝）
沼や水田でよく見られます。形はスギナに似ていて、節から数本の小枝が車軸のように生えています。

●コナギ（10～30㎝）
日本を代表する水田雑草のひとつです。花は美しい青紫色です。

絶滅が心配されている貴重な植物も生えているんだよ。

湿地が減ったり、外国の植物に追いやられて、生育場所が少なくなっている植物の中には、絶滅することが心配されているものもあります。アザメの瀬にも、そんな植物が生えています。みんなで大切に守っていきましょう。

●ミズマツバ（3～10㎝）
水田や湿地で地面をはうように生えます。小さな赤い花を咲かせ、丸い実をつけます。アザメの瀬では田んぼに生えています。

●カワヂシャ（30～60㎝）
チシャに似た川に生える植物の意味で、春先に白またはうすい青紫色の花を咲かせます。アザメの瀬ではクリークに生えてきます。

外国からやってきた植物が増えているんだ。

アザメの瀬には、昔から生えていた植物だけでなく、セイタカアワダチソウやキシュウスズメノヒエ、オオカナダモ、シロツメクサなどの外国から入ってきた植物もたくさん。こうした植物を外来種といいますが、昔からある植物を追い出して生えなくさせるなどの影響もあるので、減らすための努力をしています。

●アザメの瀬でみられる外来種の植物

●セイタカアワダチソウ（1～2.5m）
北アメリカ原産の帰化植物で、河川敷や湿った土地に生えます。明治時代に観賞用として持込まれたといわれています。

●キシュウスズメノヒエ（20～60㎝）
北アメリカ原産の帰化植物で、水田や湿地でよく見られます。紀州（今の和歌山県）で最初に見つかったので、この名前がつきました。

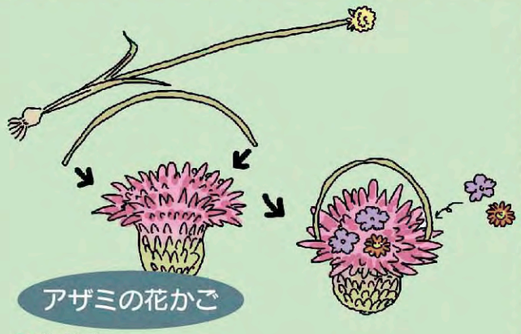
●オオカナダモ（1m以上）
アルゼンチン原産の帰化植物で、平地の池や溝で見られます。大正時代に実験植物として持込まれたものが野生化しました。

草花を使って、遊んでみよう！

アザメの瀬に生えている植物で、かざりをつくったり、いろいろなゲームをしたりして楽しめます。

葉っぱ合わせ

①ひとりが生えている草の葉っぱをとってきます。
②残りの人が、その葉っぱと同じものをさがしてきます。
③いちばん最初に見つけた人の勝ちです。



アザミの花かご

●作り方
①アザミの花に細い草花の茎をさして、とってにします。
②アザミの花びらの間に小さな花をさして、きれいな花かごのできあがりです。

外来種について、詳しい情報を集めてみよう。

●参考●環境省ホームページアドレス

http://www.env.go.jp/nature/intro/

自然と仲良くするためのルールです。

アザメの瀬は、とっても楽しいところですが、あぶないところもあります。
そして、自然を守るための約束もあります。
安全におもいっきり遊ぶために、みんなでしっかり守ってくださいね。

ゴミは持ち帰ろう。

ゴミになりそうなものは持っていかないように。もしゴミが出た時は、必ず持って帰りましょう。

自然をこわさないようにしよう。

生き物をたくさんとったり、むやみに草花をつんだりしないようにしましょう。石などももとの場所にもどしておきましょう。

よその場所にすんでいた生き物を川などにはなさないこと。

ほかのところの生き物を持ってくると、自然のバランスがこわれて大変なことになることも。

ペットのふんはきちんとかたづけよう。

ペットのふんも自然をこわす原因になります。必ずあとしまつをしましょう。

食べ物やのみものを川に流さないようにしよう。

川は魚やこん虫たちの大切なすみかです。水がよごれたら生きていけない生き物もいます。

一人で川に行かないで、みんなといっしょに遊ぼう。

川には危険なところもいっぱいあります。ぜったい一人で行かないようにしましょう。

自然の力をあまくみないようにしよう。

天気によっては、川の水が急に増えることもあります。じゅうぶん注意しましょう。

目的や場所にあった服そうをしよう。

草むらや林に行くなら、けがをふせぐためにも長そでの服や長ズボンが必要。毒ヘビがいるところなら、長ぐつも持っていきましょう。

水の中はすべりやすいぞ。

川の中は藻などが生えて、すべりやすいところがたくさんあります。ぬれてもいいくつを用意しましょう。

あぶない場所にはぜったい入らないこと。

遊ぶ前に、近くにあぶない場所がないか確かめておきましょう。また、池は急に深くなっているところもあるので、注意しましょう。

こんな植物や動物に気をつけよう!

アザメの瀬には、さわったらかぶれる植物や毒を持った生き物もいます。どんなところにあぶない生き物がいるかを知り、注意して行動しましょう。

●キツネノボタン

毒がある植物で、汁がひふにつくと、炎症やみずぶくれをおこすことがあります。

●ハゼノキ

秋になると紅葉する木で、以前は口ウをとるために植えられていました。樹液がひふにつくとかぶれますが、敏感な人は木の下を通っただけでもかぶれます。

●ヤマウルシ

ハゼノキの仲間で、幹に近い方の葉が小さいのがとくちょうです。秋に紅葉し、樹液がひふにつくとかぶれます。

●スズメバチ

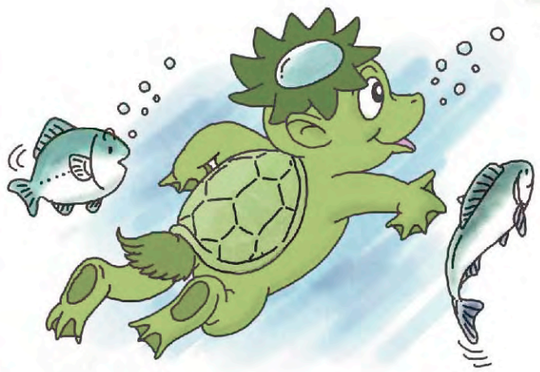
刺されると死ぬこともあります。決して近づいてはいけません。

●マムシ

全長40〜60㎝。強い毒を持っています。本来おとなしい性質なので、しげきしなければ、やたらと襲ってくることはありません。

●ヤマカガシ

全長60〜100㎝。マムシと同じように強い毒を持っています。人が近づいただけでは攻撃してこないので、そっとしておきましょう。

気づいたことを書き込もう！

生き物と会ったポイントや草花の種類、そのほか気づいたことを何でも書き込んで、自分だけの「アザメの瀬マップ」をつくってみましょう。